

学生たちが長島愛生園や邑久光明園を訪問 ハンセン病に関する資料 英訳で世界へ

大手前大学（本部：兵庫県西宮市、理事長：福井要、学長：鳥越皓之、以下本学）は、集中講義の一環として5年前より毎年実施している、ハンセン病に関する資料の英訳活動を本年度も開催いたします。本活動では、これまでに国立ハンセン病療養所「長島愛生園（岡山県瀬戸内市）」の施設内で、同園が所有する資料等の英訳や、園外でのフィールドワークに取り組んできました。今年は初めて、同じ地区にある「邑久光明園（おくこうみょうえん）」にも訪れ、同地区の地域性を角度を変えて学びます。



本学は、2015年9月にハンセン病患者の文献を研究する田中キャサリン先生と学生9名が長島愛生園を訪問し、同園のパンフレットの英訳活動を始め、2016年1月にパンフレットの英訳が完成しています。同年3月、普及啓発のため多くの資料を海外に発信していく必要があるとして、同園と本学は相互協定を結びました。その後、学生たちが毎年訪れ、証言ビデオや元自治会長の書籍翻訳、同園が所在する邑久町の町史で長島に隣接する裳掛地区の記述に関する部分の英訳に取り組むなど、活動を深めています。また、本活動には学部関係なく希望者が参加しています。

本年度は、学生たちが8月5日に大学構内で関連講義を受けたのち、6日から9日の期間、教員とともに、長島愛生園の資料館見学、入所者への聞き取りや交流会を実施し、8日には本活動としては初めて邑久光明園を訪れます。

今後も本学ではこのような啓発活動を通して、地域や世界の方々との交流を行い社会へ貢献してまいります。

■概要

期 間：2019年8月5日（月）～9日（金） ※5日はさくら夙川キャンパスでの集中講義

活動場所：長島愛生園、邑久光明園、裳掛コミュニティセンターなど

活動内容：長島愛生園内資料館「歴史館」見学

国立療養所「邑久光明園」見学

裳掛地区でのフィールドワーク

長島愛生園入所者への聞き取り

交流会